

せきじんさんこふん ちよくこもん ぶそうせきじん
石人山古墳の直弧文と武装石人

広川町域の南には、狭長な丘陵(八女丘陵)が東西に走っています。この丘陵西端に谷を隔てて石人山古墳こうかだにこふんと弘化谷古墳が築造されています。両古墳はともに「国指定史跡八女古墳群」中の主要な古墳です。前方後円墳(5世紀前半築造、全長約110m)の『石人山古墳』は九州最古の「石棺系」の装飾古墳です。

石人山古墳の装飾は、横口式家形石棺よこぐちしきいえがたせつかんの棺蓋と棺身かんぶた かんみに確認できます。一石でつくられた寄棟屋根型の棺蓋外面(長さ2.7m、幅1.4~1.5m、高さ50cm)と4枚の板石(厚さ16cm)で組み合わせた棺身前壁の、入り口部左右壁面に浮き彫りが認められます。石材は加工しやすい阿蘇熔結凝灰岩製。棺蓋長辺には上段の5区画内に重圏文、下段に5個の接続する直弧文ちよくこもんが1区画内に立体的に浮き彫りされています。棒状縄掛突起ぼうじょうなわかけとつきのある前後短辺部にも直弧文らしき浮き彫りがみられます。円文・直弧文は被葬者に対して鎮魂的な意味をもつ図文と考えられます。



後円部中央部にある家形石棺



武装石人